

保育の中での食べること

○高橋陽子 伊集院理子 伊藤綾子 上坂元絵里 佐々木麻美
佐藤寛子 杉浦真紀子 灰谷知子 渡辺満美
(お茶の水女子大学附属幼稚園)

園庭中央の花壇

↓
畑

園庭中央にある花壇を夏場は畑にする。手をかけて、気持ちをかけて野菜を育てる活動が、子どもたちの目に触れやすい園庭の中央で営まれていることの意味は大きい。



耕す



世話をする



収穫する



ふるまう



味わう



びわの木登り



しいの実拾い

↓



煎って食べる



筍スープ作り



姫筍採り



夏みかん採り

生活や行事の中で



子どもの日の集い
(柏餅・5月)



じゃがいも掘り
(親子で収穫・6月)



鏡開き
(お汁粉・1月)



誕生会後のおやつ
(季節のおやつ・毎月)

平成28年度の取り組み

- 5月 こどもの日 (柏餅)
姫筍スープ作り
- 6月 じゃがいも掘り じゃがいも屋さん
梅の実採り・ジュース作り
- 7月 夏野菜の収穫
終業式梅ジュースで乾杯
- 8月 夏期休業中・年長有志が畑の世話
- 9月 夏野菜の最後
- 10月 さつまいも掘り (みそ汁・蒸かし芋など)
- 12月 餅つき
- 1月 鏡開き (お汁粉)
大根掘り (塩もみなど)
- 2月 節分 (年の数の豆)
- 3月 ひな祭り (桜餅)
年長お楽しみ会 (カレー)

お弁当 毎月の誕生会のおやつ
遠足でのお弁当・おやつ等

「食べないからね」 3歳児12月
餅つきの日、「餅は嫌い。食べないから」と登園するなり宣言していたA児。
餅つきの様子は興味深く見ていたが、つきたての餅に触れたり味わったりする時には、口をへの字に曲げ、手は後ろに隠し、最後まで餅を受け取らなかった。



新しいことに構えがちで、こだわりが強い面があるA児。餅つきを楽しむ周りの雰囲気を感じていることは十分に伝わってきた。それでも、「食べない」という自分の思いを伝えてきたことを、教師はまずは受け止めることにした。A児の今の気持ちに寄り添い関わることで、安心して自分を出せることを保障したいと考えた。

「かかしをつくる」 5歳児6月
年長組の子どもたちが園庭中央の畑にミニマトの苗を植えた。実が赤くなるのを楽しみにしていた矢先、年中児がまだ青いトマトを数個採ってしまった。どうしたらよいかと考えた年長児が思いついたのが、かかし作りだった。



「とらないでください」と注意するのではなく、手作りのかかしを畑に立てることで伝えようとした年長児。自分たちで世話し、育てた野菜は、幼稚園で暮らすみんなで食べるからおいしい。かかしの存在で、子どもたちがかかわり合いながら育ちあっていることに改めて気付いた。

「幼稚園のスイカはおいしいね」 5歳児9月
5月にスイカの苗を植え、食べ頃をみんなで楽しみにしている中、E児は「スイカ嫌いなんだよな」とつぶやき、驚かれていた。2学期早々収穫。降園前、一人一切れスイカが配られ、E児も自然に手を伸ばし、スイカを口にした。「幼稚園のスイカ、おいしいね」と笑顔で言った。



初めての活動に対して身構えることが多く、クラスに馴染むのにも時間がかかったE児だったが、野菜の栽培には意欲的に取り組んだ。スイカは苦手だが、みんなの思いやその場の雰囲気などは、しっかりと感じとっていたのだろう。「幼稚園のスイカはおいしい」という言葉から、一緒に育て世話をした仲間とのつながりが感じられた。

保育の中での食べること ～まとめ～

* 園の生活を受け入れ、自分らしく過ごすこと

食べることは、自分の身体に取り入れることである。「今は、食べない」「食べたくない」という表現も丁寧に受けとめることが、子どもたちが安心して「食べること」に向き合い、園の生活を受け入れ、自分らしく過ごす気持ちにつながっていくと考える。

* 関わり合いの中で育ち合うこと

子どもたちは食べることにまつわる様々な体験を重ねている。育てる、収穫する、調理する、味わう、ふるまう、ふるまわれる・・・その中で、年齢を超えた関わり合いが生まれ、自分の役割を見出したり、相手の気持ちに寄り添ったりなど、一人ひとりの育ちがあり、集団全体も育っていく。

* 共に暮らす仲間を感じる

食べてみようと思ひ、「おいしい」と感じるのは、食べ物そのもののおいしさだけでなく、その場に関わる人たちの思いや、一緒に過ごす友達や教師との関係・雰囲気などが大きく作用する。食べることを通して、改めて共に暮らす仲間を感じる気持ちにつながっていくと考える。